

(第3種郵便物認可)

光触媒で感染症防止

北九州市の高齢者施設 産学官で実証実験へ

北九州市役所で会見した
フジコ어의 萩尾寿昭社長
(左から3人目)、北橋
健治市長(同2人目)ら



戸畑の「フジコー」製品を使い

戸畑区の金属加工会社「フジコー」は、抗菌、抗ウイルス効果があると考えられる「光触媒」の自社製品が、感染症の抑え込みに有効かどうかを検証する実験を北九州市内の高齢者グループホーム2カ所ですべて12月から始める。同市などが支援する産学官の取り組みで、光触媒を使った高齢者施設における感染症対策を「北九州モデル」として構築することを目指す。



光触媒は、太陽などの光に反応して菌や汚れを分解する物質。フジコーの製品は光触媒の純度を高め、除菌や消臭効果を大きくしたのが特長で、新型コロナウイルスが2時間で検出限界



光触媒技術が活用されたフジコーの空気消臭除菌装置 (フジコー提供)

値未済まで減ったとの研究結果もあるという。

実証実験は、認知症の高齢者が生活する八幡西区の「聖ヨゼフの園」と、門司区の「好日苑 大里の郷」に進める。光触媒を使った同社の床タイルや、ドアノブなどに接着するシートを施工し、空気消臭除菌装置も設置する。九州大学院の片倉喜範教授らが約3年

間、ウイルスの種類や量を測定し、施工していないエリアと比較する。新型コロナウイルスなどと感染症発症者の臨床データも集める。

実験は市立八幡病院の伊藤重彦院長が指導する。同病院は5年ほど前から、床などに同社の光触媒製品を取り入れている。実験に参加する産学官の関係者が期待できるといふ。

来年6月から対象施設の拡大も検討している。フジコーの萩尾寿昭社長は「有効性の立証はハードルが高いが、製品を世に出すメーカーの義務」と意欲的。北橋健治市長は「有効性が立証され、北九州モデルとして全国的な展開につながることを期待している」と話した。(横田理美)